

平成22年度“超”を目指す軸受技術研究会報告

“超”を目指す軸受技術研究会（第3種，主査 森 淳暢）：本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとか参加してみたい者が集っていろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度は，委員数37名，平均出席者数は25名程度で，同志社大学を開催場所とし，3回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第31回研究会（平成22年6月19日 於：同志社大学） ①高精度高速動圧すべり案内面の開発（ジェイテクト 齋藤利幸，山口泰一，青能敏雄，竹林博明，伊藤 寛），②静圧気体スラスト軸受の負圧を利用した非接触懸垂支持と搬送（福井工大 小沢康美），③空気圧サーボ軸受アクチュエータの現状・課題・展望（ピー・エス・シー 佐々木勝美）．

第32回研究会（平成22年9月25日 於：同志社大学） ①小型空気フオイル軸受について（東京理科大 吉本成香，山下 透），②ジャーナル軸受で支えられた回転体の振動（大阪電通大 小笹俊博，頼貫浩一），③生産性を考慮したスラスト流体軸受の最適設計（東海大 橋本 巨）．

第33回研究会（平成22年12月11日 於：同志社大学） ①テクスチャリング表面による潤滑油供給メカニズム（九大 八木和行），②超薄膜潤滑膜による軽荷重接触摺動の安定性（関西大 谷 弘詞，山口登夢，多川則男），③ポーランド研修報告（兵庫県立大 伊勢智彦）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年3～4回の研究会の開催を予定している．